

生活保護法の指定を受けている薬局の方へ

生活保護における後発医薬品(ジェネリック医薬品)の 使用原則化についてご協力をお願い

- 後発医薬品の普及については、医療財政の改善につながることから、国全体で取り組んでいます。更
に取組を進めるため、今般、法改正を行い、平成 30 年 10 月 1 日から、生活保護においては、医師が
後発医薬品の使用が可能であると判断された場合には、原則として、後発医薬品の使用となります。

【生活保護を受けている方への調剤について】

1. 生活保護を受けている方が、一般名処方又は後発医薬品への変更を不可としていない銘柄名処
方の処方箋を持って、調剤を受けに来ましたら、下の囲みにある取組内容を説明していただき、原則
として後発医薬品を調剤するようお願いいたします。
 2. 一般名処方又は後発医薬品への変更を不可としていない銘柄名処方の場合、例外として、先発医
薬品を調剤できるのは、①在庫がない場合と②後発医薬品の薬価が先発医薬品の薬価よりも高く
なっている又は先発医薬品の薬価と同額となっている場合です。
 3. また、薬剤師の専門的な知見から先発医薬品を調剤する必要があると考えられた場合は、処方
医に疑義照会を行い、医師の判断を確認した上で、調剤するようお願いいたします。ただし、処方医との
連絡が取れず、やむを得ない場合は、福祉事務所へ確認いただき、先発医薬品を調剤することも可
能です。
- ※初回調剤時に、休日や夜間等、福祉事務所にも連絡が取れない場合には、事後的に福祉事務所に
報告することとして、先発医薬品を調剤することも可能です。
- ※こうした対応を行った場合は、速やかに(遅くとも次回受診時まで)、処方医に対し、調剤した薬剤
の情報を提供するとともに、次回の処方内容について確認してください。

- これまでは、先発医薬品を希望する者については、一旦は先発医薬品を調剤し、指定薬局はその
事情について聴取することとしておりましたが、今後は、単に患者の希望だけでは先発医薬品を調剤
することはできなくなりますので、この仕組みは廃止となります。

【福祉事務所への情報提供等について】

1. 上記2又は3の事由により、先発医薬品を調剤した場合、別紙様式に記載をいただき、定期的に福
祉事務所へ情報提供していただくようお願いいたします。調剤依頼を送付する際に提出してください。
※可能な限り後発医薬品を調剤できる体制整備に努めていただきますようお願いいたします。
2. 生活保護を受けている患者に対し、下記「取組内容」に沿って後発医薬品の品質等について説明
することをお願いしていますが、それでもなお、患者が制度について理解できない場合には、福祉事
務所に情報提供いただき、福祉事務所における制度説明の機会につなげていただくことも可能です。

生活保護における後発医薬品に関する取組内容

- ① 後発医薬品の品質や効き目、安全性は、先発医薬品と同等であり、医療財政の健全化を図るため、行
政や医療保険など国全体で後発医薬品の普及に取り組んでいます。
- ② 生活保護では、医師または歯科医師により後発医薬品の使用が可能であると判断された場合は、原則
として後発医薬品が調剤されることとなりました。

- 中国残留邦人等及び特定配偶者に対する医療支援給付につきましても、同様の取り扱いです。

佐世保市福祉事務所
生活福祉課 医療給付係

※厚生労働省がホームページに掲載している内容を参考にしています。